グループホームかぞく
（別紙の2）

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で見直しを行い、新しい理念を検討中である	新しく決めた「あんじゃね」の理念については来訪者にも解るよう玄関とフリースペースに掲示し、職員も共有と実践に努めている。合わせて運営推進会議の席上、理念変更について説明を行うとともに家族に対しては新年のお便りの中で紹介する予定である。全職員が理念作成に関わっており理念の意味をよく理解し、利用者との会話の中でも語尾に方言を交えながら親密な関係を保ちながら支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園や小学校の運動会応援 村の行事への参加 地域との災害協定の締結 地域との具体的な繋がりはない	自治会費を納め、地域の一員として活動している。春に開催される地域のお祭りに招待を頂き、地区の催しや子供達のダンス、歌等を見学し、地域の皆様と交流している。また、村の文化祭の見学や毎年開催される社会福祉協議会主催の「ふれあい福祉広場」にも出掛け、地域の一員としてステージ発表会の見学や出店を楽しんでいる。合わせて地域の保育園児との定期的な交流があり保育園にも招待を頂き、園児の「お遊戯」発表会の見学やカレーを一緒に食べたりして楽しいひと時を過ごしている。更に、短大生の職場実習の受け入れが1ヶ月間あり、介護全般にわたり利用者とのふれあいの中で体験している。地域との災害協定締結に合わせ地域の皆様6名の緊急時ボランティアの登録もあり、ホームの行事の際には参加を頂き踊り等の出し物を始め利用者と親しく関わっていただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特にしていない 事業所の事を知ってもらえる取組について検討中である		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の際報告をし、意見を頂いている。そこで出た意見をカンファレンスで報告や話し合いを行い活かしている	家族会代表、地区総代、民生委員、役場保健福祉課職員、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回開催している。ケア報告、事業計画報告、防災関連の検討、意見交換等を行いサービスの向上に反映している。また、年何回かは納涼祭、五平餅会等に合わせ開催し利用者との交流も図っている。会議内容については職員会議で報告し、頂いた意見は支援の中に活かすようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所連絡会に参加している	村内の6事業所による連絡協議会と社会福祉協議会の運営委員会に参加している。事業所毎の意見交換に合わせ各種研修会も行われ、得た情報は支援に活かされている。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し職員が対応している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる 日中、玄関の施錠は行っていない	ホームの方針として拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は日中開錠され、ドアの開閉をチャイム音で知らせるよう工夫されている。外出傾向の強い方がいるが、職員が話を聞きホームの周りを散歩するようにしている。また、職員の勤務体制を日中4名の体制とし、2時間おきにきめ細かな所在確認を行うとともにフリースペースに必ず1名が残るようにし安全確保に努めている。毎月の職員会議の中で身体拘束についての確認を行い、意識を高め、拘束ゼロに向けて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	防止に努めている カンファレンスで話し合う 虐待になりかねない職員の言動にはその都度注意しあっている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用できる体制は整っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会の時に意見を聞いている そこで出た意見をカンファレンスで職員に伝えている	自分の思いを伝えることが難しい利用者がいるが、必ず本人に確認し、表情や動作から判断し思いを受け止めるよう心掛けている。家族の来訪は週1回～月1回位という状況である。来訪の際には利用者の生活の様子を話し、家族からの要望も聞くようにしている。家族会を7月のバーベキュー大会と12月の五平餅会に合わせ2回行い、家族、ボランティアの参加も頂き、ゲームや踊り等も含めて楽しい一日を過ごしている。また、年4回、ホーム便り「かぞく新聞」を発行し、ホームの様子をお知らせしている。合わせて利用者一人ひとりの様子は担当職員より毎月手紙にして家族に知らせており喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスの祭、意見を聞いて検討している	月1回職員会議を行い、運営全体について、イベントの検討、カンファレンス、意見交換等を行い、支援に役立てている。また、各職員は個々の目標設定を行い、それに対して施設長による個人面談が行われ、様々な意見交換の場となりスキルアップにも繋げている。避難訓練、納涼祭、村の広報誌担当等、ホーム内には8つの係があり、職員は必ず1つの係を担当しホームの運営に意識を持って参加している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞いて、できる所は改善している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報を提供し受講に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所情報交換会があり参加している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時にケアマネがアセスメントを行っている　　利用者と話をし、思いを聞くよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族へのアセスメントを行い、要望等を聞くように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや、洗濯物たたみなどできる事を、してもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築いている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や近所の方が面会に来てくれる事がある	親戚やお孫さんの来訪があり、お茶をお出しし寛いで頂いている。独居から入居された方がおり、希望によりお墓参り等にお連れしている。また、年末年始に家族と外泊される方もいる。週1～2回食材の買い出しに交代で職員と共に村内のスーパーに出掛け、自分の欲しい物の買いものも楽しまれている。本年年末には利用者個々の年賀状を作成し家族に発送予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、利用者同士の会話を支援したり、利用者同士の関係を見て気の合う人同士が会話をできるよう、支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡や他施設への入所により終了になる事が殆どある		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で出てきた思いや希望を記録し、把握、検討している	利用者の言動を否定せず行動を見守ってひと息おいて声掛けを行い、無理強いせずに希望に沿った支援に繋げるよう心掛けている。また、食事やおやつの時間には隣に座り話をする中で意向を汲み取るようにしている。日々の気づいた言動等は個人記録に纏め、職員は出勤時に確認し支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に話を聞いたり、利用者との会話により様子の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の記録を読み、把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員で計画、作成に取り組んでいる	職員は1～2名の利用者を担当し、家族への手紙、カンファレンスでのプラン見直しについての提案等を行っている。カンファレンスでは担当職員が作成したプランを基にモニタリングを行い、意見を出し合い、短期目標3ヶ月、状況が安定している場合は6ヶ月で見直しを行い、状況に変化が見られた時には随時の見直しを行っている。家族の希望は来訪時にお聞きし希望はプランの中に反映させている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し、共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の中で様々なサービス提供に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域へ協力を依頼している 地域資源は活用できていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かり付け医と連携を取っている 利用者に何か合った際は、連絡をし指示を受けている	利用契約時に医療機関についての希望をお聞きしている。現在、全利用者がホーム協力医の月1回の往診を受けておりオンコール対応にもなっている。また、常駐看護師が2名おり、利用者の健康管理に合わせ協力医との緊密な連携が取られ万全な医療体制となっている。歯科については必要に応じ協力歯科の往診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が勤務している日は、利用者の体調等相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供を行っている 退院しても以前と同じ様な生活が出来るよう情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時書面で確認しているが、思いが変わることもあるので、その時が来たら再度確認を行う。本人や家族の思いに添えるような支援に取り組んでいる	重度化に対するホームとしての指針があり利用契約時に説明し、希望をお聞きしサインを頂いている。状況に変化が生じ終末期に到った時には家族の意向を再確認し医師の指示の下、看取り支援同意書にサインを頂き支援に取り組んでいる。看取り支援中は面会時間の制約は設けずに24時間の対応を行い、1週間位泊まり込みでお世話される家族もいるという。開設以来約20名の方の看取りを行い、その都度家族より感謝の言葉を頂いており職員の励みとなっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が普通救命講習を受講している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っている 地域に協力を依頼している	年2回防災訓練を行い、そのうち1回は地震、火災想定の避難訓練を行っている。地震想定の避難訓練では利用者は「防災ずきん」をかぶり、職員はヘルメット着用の上、駐車場まで移動しての訓練を実施している。地域との防災協定も結ばれており、合わせて緊急ボランティア6名も緊急連絡網の中に登録され、強固な応援体制が整備されている。ホームのある地域が「土砂災害避難地域」に指定されており「災害避難計画書」を作成し消防署に提出している。備蓄として、通常の食料1週間分と石油ストーブが準備されている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	大声を出さないようにしている 夏は居室の入口に暖簾を掛けている	日々の生活の中で「方言」を自然な形で使い親しみを込め接するよう心掛けている。一人でいることが好きな利用者もいるので居室でのプライバシー確保には特に気配りしている。入室の際にはノックと「失礼します」という声掛けは忘れないようにし、1対1で話をしたい時には周りに分からないように居室で話をしている。呼び方は職員と同じ苗字の方もいるので希望をお聞きし苗字か名前を「さん」付けでお呼びしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いを聞いたりしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者とともに食事作り、片付けをしている 利用者と会話をしながら食事を摂っている	利用者は職員と共に会話を楽しみながら楽しいひと時を過ごしている。自力摂取の方が三分の二おり、一部介助の方と全介助の方が若干目ずつという状況である。献立はその日の当番が食材を確認し、畑で採れた野菜を使いつつ、家庭料理をお出ししている。献立は毎日記録に残し、前後の献立とダブらないよう気を付けている。利用者のお手伝いは下準備、盛り付け、片付け迄幅広く、一人ひとりの力量に応じ積極的に楽しみながら参加している。年末年始、節分、お彼岸等の年間行事には季節に合わせた手作り料理を利用者と共に作りを楽しんでいる。また、天気の良い日には近くの天竜川の記念公園まで「お弁当」を持ち、外気浴を兼ねて出掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状況に応じて、食事形態を変えている 食事やお茶の時間以外にも水分補給を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯の洗浄、消毒を行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレで排泄できるように支援している　オムツを使用している利用者もトイレ誘導を行っている	自立の方が半数強で、一部介助の方と全介助の方が若干名ずつという状況である。起床時、おやつ前後、食事前後、就寝時等の定時誘導に合わせ、一人ひとりの行動を見て落ち着きがない時にはトイレにお連れするようにしている。排便については排泄記録表を用い個々のパターに合わせ声掛け、スムーズな排便に繋げている。合わせて午前のお茶の時間には「麦茶」「牛乳」等の水分摂取も心掛けている。また、きめ細かな誘導を行うことで介護用品の費用削減にも繋るようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給を心掛けている 散歩に出掛ける		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞いている 楽しい時間になるよう支援している	一部介助の方が半数強、全介助でリフト浴使用の方が半数弱という状況となっている。基本的には週2回～3回の入浴を行っている。拒否の方もいるが二人介助で体重を量らせてほしいと話をし浴室にお連れしている。入浴剤とともに季節により「ゆず湯」「菖蒲湯」等を使い気持ち良く入浴していただくようにしている。また、家族と日帰り温泉に出掛ける利用者もいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの状態を把握している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや洗濯物たたみ等できることに参加してもらっている 散歩やドライブに出掛ける		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物に出掛ける 家族と散歩や食事に出掛けている 本人の希望に沿った支援は、なかなかできていない	外出時、杖使用の方と歩行器使用の方が若干名ずつで、車イス使用の方が半数強という状況である。天気の良い温かい日にはホームの周りを散歩するよう心掛け、月に2～3回は少人数に分かれドライブにも出掛けている。合わせて週1～2回の買い物の際にはドライブを兼ね季節の花を見て楽しんでいる。また、4月のお花見から秋の紅葉見物、更にホームの畑の畑仕事と出来るだけ外の空気に触れる機会を持つようにしている。また、年1回、9月には全員でお弁当を持ちピクニックに出掛け楽しい1日を過ごしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる利用者は現在入所していない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時に掛けられるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	片付けや掃除に気を配る 花や利用者の作品を飾る	木目と白を基調とした造りのホームは掃除が行き届き清潔感が漂っている。特に床はピカピカに磨かれ気持ちが良い。天井の柱には古民家を思わせる古材が用いられ落ち着いた雰囲気を醸し出している。陽当りの良いフリースペースは床暖房も設置され心地よい空間となっている。壁には生活の様子を紹介した写真や利用者の作品が飾られ合わせて季節の飾りつけもされている。また、玄関先からは来年の収穫に備えて土作りがされ、綺麗に耕されている畑を見ることができる。このような環境の中で利用者は職員に見守られ自由な生活を送っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	離れた場所に長椅子を二脚置いて工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物を持って来ている	整理整頓が行き届いた居室は充分な広さが確保されている。各居室とも広い整理棚のスペースがあり、利用者はテレビや家族の写真、生活用品など、暮し易いように配置している。持ち込みは自由で使い慣れた家具、イス、衣装ケース、ハンガーラック等が持ち込まれ、思い思いの生活の場となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーになっている トイレの表示を行っている 手摺りは握力が落ちても心配ないような形状の物を設置している		